

順雲山 光照院 普仙寺

# 普仙寺だより

発行  
浄土宗  
順雲山  
光照院  
普仙寺  
第301号  
令和3年  
9月8日



令和3年7月25日、世話人会・華頂婦人会役員の皆さんにお盆前の大掃除をして頂きました。

## 普仙寺諸行事 のご連絡

◎ 毎週土曜日

★ 土曜礼拝

感染防止対策をして行います。

緊急事態宣言中」は中止します。

◎ 九月二十三日 宋・祝

★ 彼岸法要

住職と副住職で勤めます  
参拝不要です。

塔婆は二十四日以降  
取りに来て下さい。

★ 秋の茶会

中止します。

★ 帰敬式

中止します。

◎ 十月八日 (金)

★ 月並法要・中止します。



令和3年7月25日、華頂婦人会役員の方にお盆前の大掃除をして頂きました。

### 盆前大掃除

令和三年七月二十五日、華頂婦人会の役員の方に、

お盆前の大掃除をして頂きました。  
境内や墓地をきれいにさせて頂きました。



令和3年7月25日、お盆前の大掃除で本堂前に高万灯を立てて頂きました。

### 高万灯起し

令和三年七月二十五日、総代・世話人会の方にお盆

前の大掃除をして頂きました。  
また初盆の高万灯を起して頂きました。

## 住職の短歌

令和2年から令和3年に  
詠んだ短歌の続き 前回は  
令和3年7月号を掲載し  
ます。

花の上雪をかぶった石落が  
揺らぐことなく立っている  
朝

参道の赤い山茶花咲いてい  
る開き始めの幾何学模様

梔子のオレンジ色の実が並  
ぶ栗きんとんを思い出す朝

万両の赤く小さな実が光る  
去年と同じ慰藉の風景

春は花夏は青い実この冬は  
朱色の種子の海桐花変相

冬の朝細葉終南天の翡翠色  
した粒の連なり

艶のある白山吹の黒い実が  
四つ揃って姿見せてる

新門を潜れば赤い山茶花が  
咲いている道歳末の朝

通り道咲いているのが嬉し  
そう三門前の赤い山茶花

坂道の塀の向こうに枇杷の  
花優しく白く群れて咲いて

年の暮れ黒門前の坂道に赤  
い山茶花今日も咲いてる

天空は立ち待ち月とオリオ  
ン座眺めて人は除夜の鐘撞

く

修正会に令和三年幸祈るマ  
スク外して記念の写真

養老の山々白く雪かぶる令  
和三年一月四日

新年の四日の朝の滋賀平野  
冬田の畔に斑白雪

初春の仏殿の前白い梅一輪  
二輪咲くぞ嬉しき

蠟梅の半透明の花びらが開  
き始めた山寺の朝

手を結び心を結び念仏を令  
和三年猊下の垂示

三叉の薄黄緑の蕾見るフワ  
フワとした花芽可愛い

喧騒の枠外に咲く赤い花山  
茶花見てる正月七日

野洲川の向こうに見える比  
良の山刃の如く白雪光る

参道に一月初めの沈丁花赤  
い蕾が春を待ってる

純白の雪の姿の伊吹山座す  
るが如く更に厳然

木蓮の鱗片葉が光ってる小  
寒過ぎの歩道の上に

水凍る朝の参道その中に凜  
と開いた水仙の花

冬の朝御廟に参る石段の脇  
に開いた檜の小花

阿弥陀堂参り終わりに佇め  
ば枝に一輪梅の花咲く

多羅葉の赤い実今も光って  
る令和三年一月半ば

き  
り  
と  
り

3	2	1	先祖代々または戒名 塔婆料一霊三千五百円)	住所 (町内名でも可)	施主氏名

令和三年秋彼岸会 塔婆申込用紙  
 注意 本堂内の申込箱へ入れるか、または郵送)  
 塔婆回向を希望する方のみお申込下さい。  
 封筒読み上げ回向の方は、彼岸回向封筒を  
 お使い下さい。

き り と り

寺行事案内

☆毎週土曜日

朝八時三十分～九時

どようらいはい

土曜礼拝

コロナウイルス感染拡大  
 防止対策をして行います

緊急事態宣言中」は中  
 止します

☆九月二十三日 宋・祝)

あきひがんえ

秋彼岸云

住職と副住職とで勤めま  
 す。参拝不要です。

檀信徒各家のご回向を致  
 します。

ご回向の方法に二種類あ  
 りますので、どちらかひ  
 とつをお選び下さい。

①封筒読み上げ回向  
 彼岸回向封筒に記入され  
 た先祖代々名または戒名

を読み上げて、ご回向し  
 ます。回向料はお気持ち  
 です。

②塔婆回向

先祖代々名または戒名の  
 塔婆にてご回向します。  
 上記の申込用紙にて事前  
 にお申込下さい。回向料  
 は一霊三千五百円です。  
 塔婆は二十三日以降  
 取りに来て下さい。

☆九月二十三日 宋・祝)

秋の茶会云

中止します。

普仙寺だより」三〇一号

発行日令和三年九月八日

発行所 普仙寺

発行者 加藤良光

〒四四一、八〇九三

豊橋市牟呂中村町六一五

電話

〇五三二、三一、七四五七